

新渡戸稲造夫人メアリーの エルム・アヴェニュー

大学文書館 井上高聡



新渡戸稲造とメアリー夫人
(1891年、附属図書館北方資料室蔵)

北大正門を入ると道の左右に数本の大きなエルムが立っている。百九年前に新渡戸稲造夫人メアリーが寄贈した木である。

演武場(時計台)を中心に北条付近にあった札幌農学校を、現在のキャンパスに移転することが決まった一八九九年、前年に農学校教授を離任した新渡戸稲造が、植物学教授宮部金吾に手紙を送った。

「新キャンパスの」新築地面は「きれいな」貴麗二したいものだ、其れ二付き、家内が Elm Avenue を寄付し度いと云ふて居る「中略」君が当春苗木を注文して呉れまいか、門ヨリ講堂方役所迄テ何十間アルカ、並木植付ノ代ハ何円位ダラフ

新渡戸は、メアリー夫人がエルム並木を新キャンパスに贈る意向であることを伝え、宮部にその手配を依頼した。正門から校舎まで(現在のクラーク胸像あ

たりまで)、または学校事務所まで(現在の百年記念会館付近まで)を並木道にしようと考えたようである。

新キャンパスの建設はこの年の六月に始まり、一九〇三年に完成して、キャンパス移転を実施した。二年後の一九〇五年春、メアリー寄贈のエルム二十四本を、宮部の指導の下に植え付けた。正門から中門(現在の南門)からの道とぶつかるあたり)に至る百メートルほどの直線道路がエルム・アヴェニューとなった。北大最初の並木道である。

その後百年の間に、メアリーのエルムの多くは、建物新築やキャンパス整備、木自体の老朽などのために伐採された。しかし、キャンパス内には、エルム並木に続き、他にもポプラ並木、イチヨウ並木をはじめとするさまざまな植樹がなされた。そこかしこには巨大な

自然木をみることが出来る。北十八条には「原生林」も存在する。北大のスクールカラーはダークグリーン。初夏から春秋に掛けて、北大キャンパスを埋め尽くす、やや陽光に焼けてわずかに褐色を帯びた樹葉の色である。

正門近くで北大の歴史とキャンパスの変遷を見守り続けるメアリーのエルムを見上げてみよう。そして、この緑豊かなキャンパス環境を満喫しつつ、大切に守っていくことを考えたい。



1930年代の北大正門。奥にエルム並木が続いている
(大学文書館蔵)